



# 淀川愛好会 YODORIC NEWS

No.75 2016年9月発行

## 〈会員の窓 37〉

### 淀川愛好会との関わり

藤田 孝志

私は、摂南大学の工学部土木工学科（現、理工学部都市環境工学科）を昭和55年に卒業し現在、民間を経て京都府八幡市役所に勤めております。私と淀川愛好会の関わりは土木工学科の卒業生会（摂南大学土木会）の役員をしているときに澤井先生から参加のお声掛けをいただいたと思います。平成9年の愛好会設立時に監査という役目もいただきながら殆ど会に参加できなくて申し訳なく思っております。

私が勤めております八幡市役所では、桜堤で有名な淀川三川合流域での国土交通省の施設整備にかかわる事業での社会実験を平成21年から「たなばた祭り」と称してイベントを国土交通省と京都府、近隣の市町とともに実施しております。そのイベントの中で川と親しむことを目的でEボートの乗船経験を澤井先生、石田先生と学生さんに毎回お手伝いをいただけてきました。

また、淀川三川合流部の三川（桂川・宇治川・木津川）沿いの各市町村では各河川敷で国土交通省から占用許可を得て公園やグラウンドの整備をして利用をしておりますが、その占用期間の更新時に各河川の保全委員会での審査を受けることになっています。その委員会の委員に澤井先生や工大の綾先生が担当されておられましてお世話になっているところです。仕事の関係で母校等の先生方や後輩の学生さん達にお世話になり、愛好会の活動とは別のところでも会員の皆さんにお世話になっていることを実感しています。

（八幡市役所 都市整備部 部長）

## イベント案内

（詳細は3～4ページ）

### 淀川愛好会秋のイベント ～流れは未来へ～ 第9回「大和川の日」 市民のつどい 亀の瀬資料館とトンネル見学会

日時：9月24日（土）13:00～16:30（受付：亀の瀬地すべり歴史資料室 12:30～）  
場所および内容：亀の瀬地すべり地及び渓谷

### 第6回 京の川の恵みを活かすフォーラム

日時：平成28年10月15日（土）13:00～17:30、10月16日（日）10:00～16:00  
場所：京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー新館セミナー室および中庭

### 第4回 カヌーでつなぐ「琵琶湖・淀川流域圏」～1,450万人・水のえん～

日時：平成28年11月20日（日）10:00～16:00、26日（土）10:00～16:00、27日（日）9:30～16:00  
場所：20日 笠置町（カヌー広場）～京田辺市（近鉄大橋）、26日 京田辺市（近鉄大橋）  
or 京都市（京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー前）～寝屋川市（点野）、  
27日 寝屋川市（点野）～大阪市（大阪ふれあいの水辺）

# イベント報告

## 天若湖アートプロジェクト2016 あかりがつなく記憶

7月2日(土)・3日(日)に京都府南丹市の日吉ダムにて開催されました。天若という集落が約30年前まで存在していて、ダム建設のため水没してしまった5つの村を忘れないように水没家屋の上の湖面にあかりを灯すイベントです。今年で12年目になりました。例年と同様にエコシビル部と石田ゼミ、PBL学生が参加し、あかりの充電や製作、設置、撤収全般を行いました。今年のはあかりのスタイルボードにアルミホイルを貼り、あかりがより輝くように工夫しました。

2日はサプライズゲストで能アーティストの前田拓人さん、篠田栞さんが湖面の灯りやキャンドルの僅かな光とのコラボレーションの中で能を披露してくださいました。静寂の中から聞こえてくる鼓の音、舞の音がとても幻想的で魅力的でした。

3日は自由観覧でした。スタッフ全員で灯りを見に行っただけですが心配されていた天候も夜は快晴で無風でした。湖面にはあかりの他に金星の光が映っていました。上世木であかりを見ている時、事務局の方々が「12年間やってきた中で最高のあかりですわ」とおっしゃっていました。それを聞いて私は手を抜かず準備をしてきてよかった。みんなと協力し合えた結果が成功を生んだと思いました。引き続き来年も後輩の皆さんにも頑張ってもらいたいです。(K・O)

## 近畿水環境交流会 in 瀬田川

近畿水環境交流会 in 瀬田川が7月23日(土)・24日(日)に行われました。初日は炎天下の中、瀬田川の唐橋をスタート地点として、そのまま下流へと4キロ歩いて「水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶」を目指しました。道中様々な景色を目にしました。瀬田川にはたくさんのブルーギルが泳いでいたのを見て、もの凄く駆除したいと思いました。午後からはウォーターステーション琵琶でシンポジウムが始まり、様々な団体が発表しました。特に印象に残っているのはオオバナミズキンバイという外来植物の話です。琵琶湖から繁殖し瀬田川まで勢力を伸ばしているそうで今非常に手を焼いているとのこと。外来種問題の深刻さを感じました。2日目はEボートを使った距離測定や写真コンテスト、Eボートレースをして瀬田川を満喫しました。ちなみに、優勝したのは、大阪府河川室の皆様です。水辺の匠にも参加して忙しくも楽しい一日でした。(S・Y)

## 三川合流七夕まつり

8月6日(土)・7日(日)に、淀川河川公園背割堤地区において納涼七夕まつりが開催されました。昼間の“夏の川を楽しもう!”では、Eボートの他、カヌーやSUPの体験も行われました。木津川の自然に触れながら、大人も子どもも楽しみました。夕方からは面白いステージや出店も多くなり、淀川三川合流域拠点施設のオープンに向けて賑わいを見せていました。(M・K)

## 淀川まるごと体験会

8月21日(日)、寝屋川市点野で淀川まるごと体験会が行われました。約150人が参加しました。午前には水辺のゴミ拾いから始まり、Eボート体験と地引き網体験などを行い、午後は、点野ワンドや砂州での魚釣り、ヨシ笛づくり、石ころアート等のプログラムが行われました。また、防災の意識を高めるため、土嚢積み体験や水没道路歩行体験、アルファ化米を用いたドライカレー味の非常食作りを実施しました。暑い中子ども達は、川の生物に興味津々に観察したり、アスレチックで遊んだり、普段経験しないことを楽しんで「淀川最高!!」という声が聞けました。特に大きな怪我や熱中症はなく楽しんでくれたことがよかったと思います。(M・Y)

## 川勝水辺ひろばのつどい

8月28日(日)午前中に、寝屋川と打上川の合流部にある川勝水辺ひろばで行われました。参加者は約40名でした。当日は天候が悪く、開会式時に大粒の雨が降ってきました。イベントの進行が心配されましたが、霧のような小雨になったので参加者はボート体験や生物調査を行うことができました。子どもたちはとれたドジョウやエビを見て楽しそうな様子でした。大人たちもここにはこんな生き物たちがいるのだと感心していました。私はこれほどの多様な生き物たちがいる川勝水辺ひろばをもっと知っていただきたいと思いました。(Y・K)

## 春日野園夏祭り・日野川水辺フェスティバル

8月28日(日)10時~14時に京都市伏見区にある春日野園(保育園)と日野川水辺の会主催で日野川水辺フェスティバルが行われました。このイベントでは子どもたちにEボートに乗ってもらい水と親んでもらいました。自らパドルを持ち一生懸命に漕ぐことで普段では体験できないボート乗船を楽しんでいました。保護者の皆さんにも同乗していただき楽しんでもらうことができました。ステージでは摂南大学吹奏楽部による演奏が行われました。(K・H)

## たいこ橋さざなみフェスト

8月28日(日)に京都府八幡市でたいこ橋さざなみフェストが行われました。このお祭りは、さざなみ公園からたいこ橋までを3000個ものキャンドルで演出する「キャンドルナイト」と、地元の方やレストランのシェフなどが自慢の料理を振る舞う「フードコート」をメインイベントに行い、その他にも協力団体による大道芸やフラダンスなどがステージで披露されました。エコシビル部は事前の会議段階から参加し、キャンドルナイトの配置、点灯、片付けを行いました。苦労した点は、赤青黄などの様々な色のキャンドルをきれいに見えるようにキャラクターの絵柄に見えるように並べることでした。暗くなる頃にはお辺りをキャンドルが演出し、子供からお年寄りまでたくさんの方に見て楽しんでいただきました。(Y・F)

## 第16回 川に学ぶ体験活動全国大会 in 琵琶湖・淀川流域圏

9月3日(土)・4日(日)に、摂南大学や各会場にて行われました。1日目の午前、寝屋川視察が行われ、午後は綾史郎先生による基調講演「淀川生態環境の目指すもの」がありました。続いて、各団体から活動事例の発表がありました。その後、5つの分科会があり、私が担当した第2分科会では名和あけみ様の「地域の自然環境を守るための環境教育活動とエコリーダー育成」ということで、長良川を中心とした流域の方々とゴミ拾いや生き物調査などについてお話がありました。次に、中村大輔様の「ふるさとに伝わる湖魚文化を学ぶ体験活動」ということで、アイキッズという小学生たちと琵琶湖の食文化についての活動のお話がありました。最後に懇親会に参加し、多くの行政の方やボランティア団体の方と交流を深めることができました。2日目は、琵琶湖・淀川三川・城北ワンド・大川・淀川大堰・毛馬閘門など各5コースに分かれてエクスカッションが一日通して行われました。大会宣言など、詳細は全国大会のHPをご覧ください。(K・O)

## 第9回 いい川・いい川づくりワークショップ

9月10日(土)・11日(日)に岡山県高梁市にて行われました。エコシビル部は主体的に活動を行うことで地域団体との横の繋がり、活動の楽しさや考えを後輩に伝えていく縦の繋がりという内容を発表しました。入賞は逃しましたが、今までの活動を振り返るよい機会となり、この経験を今後の活動に活かしていこうと思いました。(S・H)

## 今後のイベント詳細

### 淀川愛好会秋のイベント ～流れは未来へ～ 第9回「大和川の日」市民のつどい 亀の瀬資料館とトンネル見学会

日時：9月24日(土) 13:00～16:30 (受付：亀の瀬地すべり歴史資料室 12:30～)

場所および内容：亀の瀬地すべり地および渓谷 歴史資料室はJR河内堅上駅下車徒歩20分

(河内堅上へは奈良発快速11:47王寺で各停乗るかえ 12:13着 天王寺発快速11:46久宝寺で各停乗るかえ 12:22着など)

大和川は、亀の瀬で奈良の河川が1本になって大阪に流れこみ、大阪と奈良を結ぶ舟運や街道の要所でもありました。昭和初め1931～32年の地すべりで大きな被害を受けました。国は1962年～2011年まで約50年かけて地すべり対策工事をしました。埋まっていた旧国鉄関西線のトンネルが80年ぶりに発見され、貴重な鉄道遺跡として公開されています。亀の瀬渓谷の自然や歴史にふれ、涼しい地下を探検し、地すべり対策など防災について学びます。

A 地すべりについて見学(・地すべり資料室・地下水の排水トンネル・発見された明治20年代の国鉄トンネル)

B 亀の瀬渓谷観察(・剣先船の安全を願った「浜神」竜王社など)

見学ガイド： 柏原歴史資料館 石田成年様と 大和川河川事務所の皆様

主催： 大和川市民ネットワーク 参加申込は淀川愛好会事務局または澤井会長まで。

## 第6回 京の川の恵みを活かすフォーラム

日時：平成28年10月15日(土) 13:00～17:30、10月16日(日) 10:00～16:00

場所：京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー新館セミナー室および中庭

主催：京の川の恵みを活かす会、川魚文化再興プロジェクト

共催：桂川流域ネットワーク、芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク

プログラム： 1日目 報告討論会「活かす会の活動成果：川に恵みは増やせたか？活かしたか？」

2日目 食味調査会「川魚のレシピと食味の体験」

参加費：食味調査会のみ2000円(食材経費実費) 飲み物はお茶とソフトドリンクの提供をします。アルコール類の必要な方はご持参下さい。

参加申し込み：15日、16日のそれぞれについて氏名、所属団体を明記の上、下記宛にお申込みください。(先着100名様まで)

申し込み宛先：京の川の恵みを活かす会事務局 E-mail [ikasukai.all@gmail.com](mailto:ikasukai.all@gmail.com)

## 第4回 カヌーでつなぐ「琵琶湖・淀川流域圏」～1,450万人・水のえん～

日時：平成28年11月20日（日）10:00～16:00、26日（土）10:00～16:00、27日（日）9:30～16:00

場所：20日 笠置町(カヌー広場)～京田辺市(近鉄大橋)、26日 京田辺市(近鉄大橋)or京都市(京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー前)～寝屋川市(点野)、27日 寝屋川市(点野)～大阪市(大阪ふれあいの水辺)

主催：琵琶湖・淀川流域圏連携交流会 参加費：各日8000円

申し込み宛先：琵琶湖・淀川流域圏連携交流会 Tel.072-847-2286 Fax.072-807-7873 E-mail jimukyoku@bynet.jp

### 〈会員の窓 38〉

#### 自然と共に育つ

横野 翔大

私は大学生になってすぐエコシビル部（エコ部）という部活に入りました。理由は、私自身が自然や環境について興味を持っていたからです。エコ部に入って3年間続けて子どもたちと川について学んだり、遊んだり、Eボートの漕ぎ方をお客さんに教えたり、凄く密な時間をエコ部のみんなと過ごしました。今では先輩や環境に関わる様々な方々と繋がりを持てました。エコシビル部に入ってよかったと心から思います。

現在、石田ゼミに所属していますが、エコ部の顧問兼ゼミ担当教員の石田先生とはもう4年も一緒に活動しています。これからも毎日が忙しくも充実した日々を過ごしていくでしょう。最近では「淀川まるごと体験」があり、訳あって淀川本川を3m潜水するという中々体験できないこともしました。私が様々な活動・体験をしていくうちに感じたことがいくつかあります。やっぱり自然で遊ぶのは楽しいということ。学校や家では教えてくれない学びがあるということ。珍しい体験ができること。簡単に言うと、自然が私たちに教えてくれることは数え切れないということです。ですが、今の子どもたちはあまり自然に触れ合おうとしません。何故か。それは、自然の大切さを知らない大人や学校で「川に近づくな」「危ないから絶対に行ってはダメ」と言い聞かせているからです。確かに安全ではありません。しかし、そんなことを言い出したら安全な場所なんて何処にもないと思います。家から出れば車が通る道路がある。公園で遊んでいけば怪我だってする。「危ない」はどこにでもあるのです。少し危険が付きまとう環境の中でこそ子どもたちは大きく成長するのではないかと私は思います。

私は、自然の大切さを知らない人達に一言だけお願いをしたいです。子どもたちが成長する機会に蓋をするのをやめてください。もっと子どもたちに「たくさん体験」と「少しの危ない」を与えてやってください。それが一番の成長に繋がると思います。

(摂南大学理工学部都市環境工学科 4回生)

#### お見舞い

今回の東北・北海道における大雨災害で被災された方々に対し、心よりお見舞い申し上げます。

#### 編集後記

今夏の暑さは、老躯の骨身に堪えるほどの異常さでしたね。願わくは今年限りであって欲しいですね。

京大防災研宇治川オープンラボラトリーの中庭に造られた、澤井先生の肝煎りの巨椋池モデル（縮尺 1/200）ピオトープでは、ソーラー発電でポンプアップされた地下水が、昔を偲ばせる巨椋池のミニチュアに絶え間なく注がれています。池では、水生植物が花を咲かせ、蛙、メダカ、アメンボウ、ミズスマシ、水生昆虫たちなど、沢山の生きものたちが酷暑なんのそのとばかりに生き生きとその生を謳歌しています。傍らの名も知れぬ草たちも元氣よく大空に向かって大きく手を広げています。生きものたちが一生懸命生きていく姿を眺めていると心が癒されますね。生きもの万歳！

編集長 相本太刀夫（元摂南大学薬学部教授）

淀川愛好会事務局：〒572-8508寝屋川市池田中町17-8 摂南大学理工学部都市環境工学科 石田研究室内

TEL/FAX：072-839-9125

HP：<http://www.setsunan.ac.jp/civ/yodoric>

E-mail：[ishida@civ.setsunan.ac.jp](mailto:ishida@civ.setsunan.ac.jp)